**＜参考資料2-1＞**

第3期障がい福祉計画・企業等の就労先を退職し、

障害福祉サービス事業所の利用を開始した人数における

短期就労者(3年以下)に対する追加調査

**＜基本事項＞**

**１．調査期間　　　平成27年9月3日(木)～9月18日(金)**

**２．調査対象人数**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **平成24年度** | **平成25年度** | **平成26年度** | **合計** |
| **24人** | **20人** | **21人** | **65人** |

**３．回答人数と障害者手帳種別内訳**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **身体** | **知的** | **精神** | **なし** | **不明** | **合計** |
| **6人** | **16人** | **20人** | **9人** | **12人** | **63人** |

**※「なし」の8人は精神障害、1人は高次脳機能障害**

調査番号が未記載又は調査票と整合していないものを「不明」として整理した。

**４．調査対象事業所数　　　18事業所　　就労移行支援事業所 7事業所**

**就労継続支援A型事業所 7事業所**

**就労継続支援B型事業所 8事業所**

**＜アンケート設問内容集計＞**

**１．事業所利用に当たり、本人が関わった支援機関　(n=132件)**

※「⑧その他」は、病院、就労系事業所、地域活動支援ｾﾝﾀｰ、県事業ｸﾘｴｲﾃｨﾌﾞｼﾞｮﾌﾞﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ利用等

**２．退職した企業等に対する病名・障害名明示の有無　(n=63人)**

**３．精神障害者の場合の該当する状態　(n=48人)**

てんかん、高次脳機能障害、適応障害、薬物依存、離人症、人格障害、社会不安障害

**４．「退職理由」の具体的内容**

①ストレス要因(全体)　(n=105件)

②主なストレス要因における障害種別状況

②退職理由別のストレス要因の具体的内容

＜a仕事が大変＞

・手に麻痺があるため。(身)　　　　　　　　・思うように仕事がいかないストレスがあった。(知)

・仕事内容(清掃)が苦手な分野だった。(知)　・レジ打ちの仕事を覚えられず、失敗が多かった。(知)

･ 単独作業の為､自分で意識して注意、確認をしなければならなかった。(知)

・本人は外見は普通に見えるが、作業の難しさがあった。(精)

・毎日、同じような能力を求められた。(精)　・作業時間を決められた仕事についていけなかった。(精)

・仕事が覚えられなかった。(無)　　　　　　・電話対応ができなかった。(無)

・体力的に負担が大きかった。(身)　　　　　・仕事が覚えられなかった。(知、精、無)

・ミスが多かった。(精)　　　　　　　　　　・業務ができているか自信がなかった。(精)

・1日6Hの安定した勤務が負担だった。(精)　・お客さんと世間話ができなかった。(精)

＜b人間関係＞

・相談できる担当者が会社にいなかった。(身)

・入社当初は、人間関係がとれず配置転換があった。(身)

・業務が忙しく、社員の口調が厳しくなり、ストレスに感じてしまった。(知)

・仲間との擦れ違い、協調できないもどかしさとストレスがあった。(知)

・社会的な常識（挨拶等）が身についていないため、周囲とうまく付き合うことができなかった。(知)

・職場に相談する人はいたが、一部の社員と折り合いがつかなかった。(知)

・目上や年上の人に対する言葉使いや相手との距離感がわからず敬遠された。(知)

・障害者雇用ではなかったため、周囲の理解が得られなかった。(知)

・精神的に落ち込む出来事があった。(交通事故や交友関係)(知)

・同年代の仲間が職場にいなかったため、会話を楽しんだり、相談し合うことができない環境だった。(知)

・一緒に仕事している障害者に自分の思いを押し付けたり、求めてしまった。(知)

・いじめがあった。(精)　　　　　　　　　　　　　　・先輩職員にしつこくつきまとわれた。(精)

・人からよく思われたい気持ちが強く、無理をしてしまった。(精)

・仲間に入れず、距離が離れてしまった。(精) 　 　　・上司が威圧的だった。(無)

・対人関係に不安があり、出勤がままならなかった。(無)

・強めの言動により人間不信になってしまった。(無) ・同僚といさかいがあった。(無)

・店長に包丁で斜め切りができないの？と言われ、かちんときてやめた。(精)

・女性職員と合わなかった。(精)　　　　　　　　　　・年下のスタッフと合わなかった。(無)

・指導者との関係が悪化したため(無)

＜c体調不良＞

・1月以上の病欠が2回あり、会社として雇用が難しくなった。(身)

・仕事を頑張り過ぎて、体調不良となった。(知)

・仕事が思うようにいかない、擦れ違いにより出勤できなくなった。(知)

・休憩時間が少なく、体調不良が起きた。(知)　　　　・精神的なものからくる腹痛がひどくなった。(知)

・腰痛がひどくなった。(知)　　　　　　　　　　　　・寝不足等があった。(知)

・体重増加により機敏な行動やかがむ作業が難しかった。(知)

・睡眠不足、ＳＮＳによる対人トラブルがあった。(精)

・バセドー病があり、軽い疲労感があった。疲れがたまり、風邪が抜けないことが続いた。(精)

・不眠などの症状が出始めた。(無)　　　　　　　　　・睡眠不足、頭痛で悩んでいた。(無)

・人工透析による体調変化があった。(無)　　　　　　・病状が悪化した。(精)

・長女の難病の検査結果が気がかりで不安になった。(無)

・薬物に依存していった。(精)　　　 　　　　　　　 ・被害妄想が出現した。(精)

・めまいが出現した。(精)　　　　　　　　　　　　　・統合失調症発症のため、退職となる。(精)

・体調不良が続き、当日の欠勤申し出が多かった。(精)

・昼夜逆転をし、引きこもってしまった。(精)　　　　・気分の落ち込みがあった。(無)

・腸閉塞が再発した。(無)　　　　　　　　　　　　　・人の目が気になってしまった。(無)

＜d労働意欲の減退＞

・遊びを優先してしまった。(身)

・注意されることが続き、できていることに対する評価がされなかった。(知)

・周囲のフォローを受けるも､自ら行動することができなくなった。(知)

・もっとお金が稼げるところがあると思って、退職した。(知)

・任された（分業）作業の為､他者と比べることや競争がないため、急ぐことができず、注意を受ける場面が増えた。(知)

・本人の状態が不安定なため継続が困難だった。(精)　　・意欲が減退して、最終的に退職となった。(無)

・自転車通勤が苦になっていった。(無)　　　　　　　　・職場での人間関係により意欲が減退した。(精)

＜e労働条件＞

・正社員という条件のため、仕事内容に負担があった。(無)

・通勤環境。(無)　　　　　・勤務地が遠かった。(精)　　　　　・業務が薄くなってしまった。(無)

＜f配慮の不足＞

・会社側の業務が忙しく、事前に伝えてあった本人への配慮が十分なされなかった。(知)

・本人に対する接し方、言葉のかけ方に配慮がなされなかった。(精)

＜g契約満了＞

・トライアル雇用期間が終了となった。(知)　　　　　　　　・毎年半年間の契約となっていた。(精)

・契約期限が決まっていた。(無)

＜h事業の廃止＞

・勤め先がなくなった。(知)

＜iその他＞

・会社側の都合により退職した。(身)

・会社側の意向。有期雇用であったが、体力のなさ、コミュニケーション不足から仕事に支障が出た。一緒に働いていた人たちとうまくいかなくなり、やめてくれないかと言われた。(知)

・自分が変な人と思われていると感じてしまった。(精)

・周りから受け入れてもらえなかった。(無)　　　　　　・自宅近くに一般就労した。(無)

・結婚のため。(身)　　　　　　　　　　　　　　　　　・学業に専念するため。(精)

・学業との両立が難しかった。(精)　　　　　　　　　　・借金(精)

・3年勤務したらやめようと思っていた。(無)

**５．退職に至る経過における本人を取り巻く環境　(n=22件)**

「家族が亡くなる」「家族の病気」「職場の休憩時間に1人でいることが増えた」「学校から社会へ出たことにより、人間関係の幅が大きく膨らんだ」「何が何でも就労ではなく、家で手伝いをしながら過ごすことも良いと考え方の変化」

**６．「退職後の支援」における事業所として感じた困難さ　(単位:件)**

**■主な内容**

|  |  |
| --- | --- |
| 本人との人間関係構築の困難さ | ・障害プラス本人の性格により、事業所内のメンバーとも度々トラブルがあり、人間関係を構築するのが難しかった。・聴覚と知的障害を持った方に対するコミュニケーションの難しさ。 |
| 本人の体調管理 | ・体調不良で休んだ時、どの程度の声掛けをすればよいのか難しかった。・精神的な落ち込みから立ち直るまでに時間がかかり、毎日事業所に来ることが大変だった方の支援。・症状に波があり、勤怠が安定しなかった方に対する支援。 |
| 意欲の引き出しに時間がかかった | ・本人の興味が薄く、苦手意識の強いことには極端に意欲が低下した。経験のないことに対し不安や恐れが強く、大変だった。・本人のモチベーションが下がってしまった状態では、こちらの思いやアドバイスが思うように入っていかなかった。・社会から自分は必要ないと認識してしまい、その感覚を取るのに苦労した。 |
| 障害受容(本人、保護者) | ・本人は働きたい思いを持っていたが、振り返ることが難しい。退職になった原因を改善して、次につなげる事が難しかった。・自己見当識にずれがあり、ありのままの自分を受け入れられないため、支援が難しい。 |
| 本人の経験不足からくる困難さ | ・用意された進路、不満のない生活環境、何もかもやってもらえるという生活から、自分で考えて行動する場面が少なく、達成感ややりがいを感じる経験が乏しいため、意欲や積極性の芽生えに時間がかかった。・在学中には見えなかった「働く準備性の獲得」が必要と感じた｡大体一人でできるため、家族も困難さを感じず社会人となってしまう。思うようにいかないこと､自ら考え主体的に行動すること、達成した経験値など､失敗経験も必要と感じた｡ |
| その他 | ・金銭管理がルーズであることや、対人の距離感が近すぎることが、改善点だったが、親しくしている男性の影響が大きく支援が届かなかった。・作業に当たっての指示が通るが、その他のルール付けが自分の解釈で動いてしまうことがあるので難しかった。・ギャンブルに依存してしまったり、他者とトラブルになったり、生活面の安定が難しかった。・前職の環境や上司への不満を多く口にし、離職はすべて会社側の責任と考えていた。働いていた自分の言動を顧みることできず、困難があった。 |

**７．就業を継続するのに必要と思ったこと　(単位:件)**

**■主な内容**

|  |  |
| --- | --- |
| 作業内容の工夫(会社側) | ・お互いに話をし、納得した上で仕事ができていたら。・知的障がいであるが、てんかん発作があるため、休憩時間の確保や体調不良時の対応をしてくれていれば。・苦手な作業ではなく、本人の得意分野で就労することができれば継続できたと思う。 |
| 障害特性に対する理解(会社側)　 | ・社会が発達障害に対して理解していれば。・本人と上司の間でクッションになって、本人の気持ちを伝達できる人がいれば。・職場が本人の特性を理解してくれていれば、続けられたと思う。 |
| 障害特性に対する理解(本人)　 | ・周りからよく思われたいという思いから、できないこともできると返事をしてしまう。ありのままの自分を受け入れてもらっていたら。・本人が障害を受容して、「できること」と「できないこと」を区別できていたら、会社に具体的な配慮が求められたかもしれない。・家族の障害受容ができていなくて、理解が得られなかった。違った形でサポートしてもらっていれば、続けられたかもしれない。 |
| 体調管理(本人側 | ・本人の健康が維持できていたら仕事を続けることができた。訓練中に体調管理に関し具体的な手立てを構築すべきだった。・本人が治療について認識があり、治療を受けることができていたら、就業は可能だったと思う。 |
| ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の不足(本人側) | ・本人に相手の話を聞く、自分の思いを伝えるコミュニケーション能力が備わっていたら、仕事が継続できていた可能性は高かった。・身近な方ともう少しコミュニュケーションが取れていればと思う。 |
| 見極めの不足(支援機関側) | ・採用前の体験研修で、就労ができる状態なのか判断ができなかったが、今後の課題である。・一般就労に耐えられる力が不足していた。(不安定、職場、対人マナー等)・ジョブコーチ支援がもっと手軽に使えていれば、障害に対する理解や仕事に対しての接し方が違っていたかもしれない。 |
| その他 | ・就労先が廃止にならなければ続けていた。・結婚し、子どもがほしかったため、自己判断で服薬を中断してしまった。主治医に相談することができていたら状況は変わっていたかもしれない。 |

**８．特記事項、意見等**

・声が小さく日常会話にぎこちなさがあり、自分の意思を明確に相手に伝えることができない。克服しようという本人姿勢は感じたが、自発的な意思表出に苦手意識を持っているため、根底から再構築するには利用期間が短かった。

・無理して当時の職場にこだわるよりは、再就職を考えた方が、本人も会社も必要以上に傷付くことはない。

・マッチングがうまくいっていないケースは、配慮・調整するより、次の企業を探す方が結果的にうまくいく。

・小さなことも深く考え込む完璧主義のため、ストレスを自分つくっている。

・相談支援を重視、信頼関係を良好にしたい。

・自分の判断で行動し、指示が通らない思い込みの強い方の支援は困難を伴う。

みの強い方の支援の難しさ。